

大分県で発見された日本新産種Cystoderma tricholomoidesについて

誌名	日本菌学会会報 = Transactions of the Mycological Society of Japan
ISSN	00290289
著者名	村上,康明
発行元	日本菌学会
巻/号	51巻2号
掲載ページ	p. 77-80
発行年月	2010年11月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



大分県で発見された日本新産種 *Cystoderma tricholomoides* について

村上 康明

大分県農林水産研究指導センター林業研究部きのこグループ, 〒 879-7111 大分県豊後大野市三重町赤嶺 2369

Cystoderma tricholomoides, new to Japan, found in Oita Prefecture

Yasuaki MURAKAMI

Mushroom Research Group, Division of Forestry, Oita Prefectural Research and Guidance Center for
Agriculture, Forestry and Fishery, Akamine, Mie, Oita 879-7111 Japan

(Accepted for publication August 10 2010)

Cystoderma tricholomoides, new to Japan, was found in Oita Prefecture. This species was first found in Eastern Germany and described as a new species in 1973. In Oita, this species was found growing on dead bamboo leaves despite being originally collected from old waste straw of *Linum usitatissimum*. Shape and color of the basidiocarps are characterized by the presence of a light ochre persistent membranous volviform veil at the lower part of the stipe, darker colored pileus compared to the congeneric and similar sized *Cystoderma japonicum*. A further critical difference is absence of clamp connections in *C. tricholomoides* that exist in another congeneric Japanese species.

(Nippon Kingakukai Kaiho 51: 77-80, 2010)

Key Words—*Cystoderma*; new to Japan; bamboo forest; clamp connection

2006年6月1日、佐伯市在住の砂田洋一氏から三重町内田の神社境内で採集したきのこの提供を受けた。傘の径は約5 cm、表面は淡黄褐色で、柄の下部につばを有していた。傘表面の状態や子実体の形状からシワカラカサタケ属と判断された。オオシワカラカサタケにやや似ていたが、傘の色がより濃色で、表面の微粒がより細かく、また、つばがより下方に位置している点が異なっていた。この子実体は届けられた時点で傘と柄が分離しており、乾燥が進んでつばの状態が確認できなかったため、状態の良い標本を求めて6月5日に採集場所を訪ねたところ新鮮な標本を手に入れることができた。さらに2年後の9月12日に大野町在住の後藤真一氏が同町中原で採集して持参された標本が同じ特徴をもっており、9月13日に現地で幼菌から成菌まで多数の新鮮な子実体を確認することができた。

このきのこは、外部形態と顕微鏡的特徴から日本新産種 *Cystoderma tricholomoides* Heinem. et Thoen であると思われたので、新種記載を行った Dr. D. Thoen に写真と標本を送付して確認を依頼したところ、当種に間違いのないとの回答を得た。この種はドイツで採集された標本に基づいて1973年に新種記載されたものであり、アマ

の枯れて古くなった植物体上に発生したとのこと (Heinemann and Thoen, 1973) であるが、今回大分県ではマダケ林林床の枯れ葉上、またはマダケ林近傍のスギ林内落葉上に発生していた。

この種は形態的にはオオシワカラカサタケ *C. japonicum* Thoen et Hongo (1985) に似ており、同様に大型の子実体を形成するが、つばがつばと見違えるほど柄の下方に位置し、成菌の傘の色がより濃色である点が異なる。これまで日本産のシワカラカサタケ属は全てクランプコネクションを有するとされてきた (今関・本郷, 1987) が、本種はそれを有しないという点においても明らかに異なっている。熱帯地域から報告されている *C. elegans* (Beeli) Thoen も本種にやや似るが、傘の色がより淡色であること、つばが柄の上部に位置すること、柄がより長いこと (*C. elegans* の方が細長い)、胞子の長径/短径比がより大きいこと (*C. elegans* の方が細長い)、などにより区別できる (Thoen and Hongo, 1985; Thoen, 1969)。

Cystoderma tricholomoides Heinem. et Thoen, Bull Soc Myc Fr 89:11. 1973. (図1, 2)

傘は径 32-77 mm, 最初丸山型, のち成熟に伴って

平開する，表面は微粒状で粘性はなく，黄土色～淡赤褐色．ひだは柄に直生し，非常に密，色は黄白色～淡赤色（図 1A, B）．肉は白色で無味，臭いはほとんどない．

柄は 45–100 mm×6–13 mm，ほぼ上下同大で，根元が急に太まる（9–19 mm），表面は黄白色～淡赤色，中央よりも下部に膜質大型のつばを有し，つばの上面は黄白色で平滑，下面は黄白色の地に帯褐色の粒点を密布する（図 1C）．

胞子は楕円形，平滑で 4.6–6.0×2.9–3.4 mm (n=30)（図 2A），長径／短径比は 1.48–1.84 の範囲にあり，平均 1.63，非アミロイド，シスチジアはない．傘表皮は球形の菌糸からなり，25.3–39.8×21.7–26.9 mm (n=8)（図 2B），傘，ひだ，柄の実質等を検鏡したが，菌糸にクランプはなかった（図 2C）．

Heinemann and Thoen (1973) は *Cystoderma* を 4 つの節に分けている．彼らの考え方に従えば，胞子が非アミ

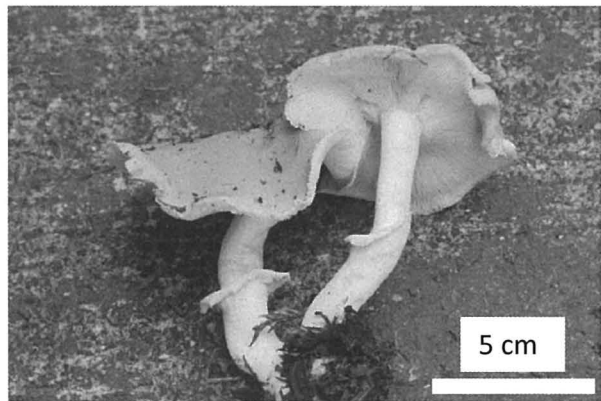
ロイドで結晶を有するシスチジアがないことからこの種は *Granulosa* 節 (Section *Granulosa* (Fr.) Locquinemend Locquin (1945); Smith et Sing. (1945)) に属する．それに対して，Singer (1986) は 2 つの節を認めている．節の区分は若干異なるが，彼の分け方に従っても同じく *Granulosa* 節となる．

今回の報告は，旧東ドイツ，オランダにつづいて世界で 3 箇所目の発生地となる．大分県産のものは，Heinemann et Thoen (1973) の原記載や写真 (Fig. 3) と比較すると柄が細長い．また，胞子の長径がやや長く，したがって長径／短径比もやや大きい，地方変異と思われる．

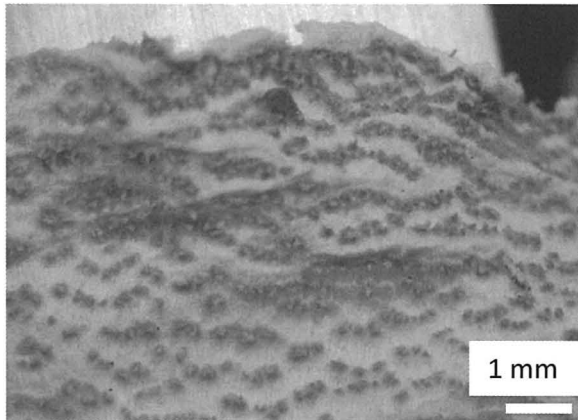
供試標本：大分県豊後大野市三重町大字内田，マダケ林近くのスギ樹下，スギや広葉樹の落葉の間から発生，砂田 洋一 採集，2006 年 6 月 1 日（標本番号：OMH2006/9）．同所にて，村上康明採集，2006 年 6 月 5



A



B



C

図 1. *Cystoderma tricholomoides* (A) 子実体の発生状況，(B) (成熟個体の外部形態，(C) つばの下面の粒点

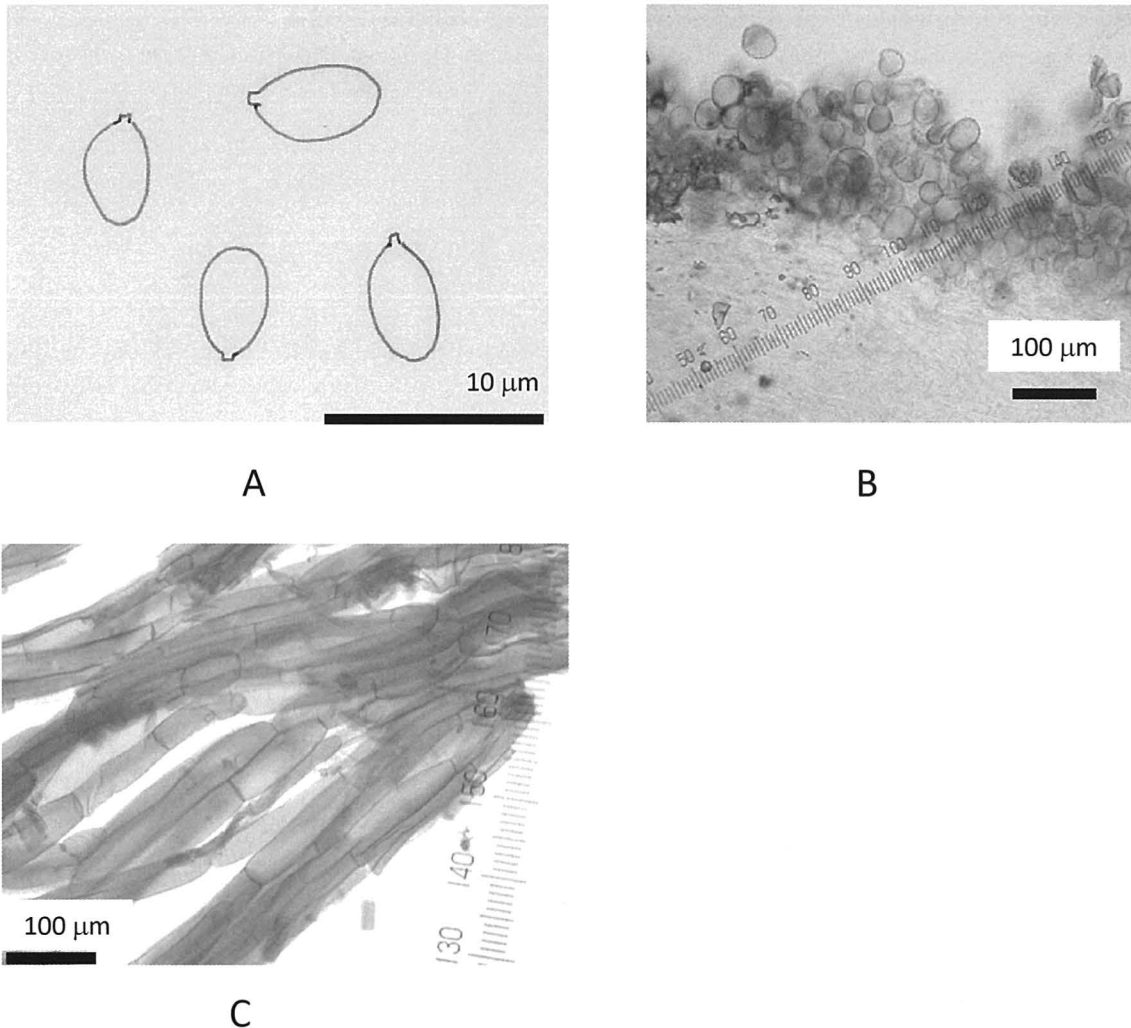


図2. 検鏡図 (A) 担子孢子, (B) 傘表皮の菌糸, (C) 柄の菌糸

日 (標本番号: OMH2006/10). 大分県豊後大野市大野町中原, マダケ林内落葉上, 後藤眞一採集, 2008年9月10日 (標本番号: OMH2008/1). 同所にて, 村上康明採集, 2008年9月13日 (標本番号: TNS-F-32151, OMH2008/2).

この種に対して, 採集地である大分県の古名にちなんで「ブンゴシワカラカサタケ」という和名を提案する.

謝 辞

標本を採集して提供いただいた大分きのこ会幹事の砂田洋一氏と, 大野町田代の後藤眞一氏に感謝する. また, 筆者が送付した標本を検鏡して確認いただいた, ベルギーの Dr. D. Thoen に深甚なる謝意を表する.

摘 要

日本新産種 *Cystoderma tricholomoides* について報告した. 本種は外見的には, 大型であること, 膜質のつばを有する点などにより, オオシワカラカサタケ *Cystoderma japonicum* Thoen & Hongo に似るが, 傘の色が濃色であること, つばが, つばと見間違ふほど柄の下部に位置することにより区別される. さらに顕微鏡的にはクランプコネクションを有しない点が顕著に異なる.

引用文献

Heinemann G, Thoen D (1973) Observations sur le genre *Cystoderma*. Bull Soc Myc Fr 89: 5-35
今関六也・本郷次雄編著 (1987) 原色日本新菌類図鑑 (I). 保育社, 大阪

Singer R (1986) The Agaricales in Modern Taxonomy.
Koeltz Scientific Books, Germany
Thoen D (1969) Le genre *Cystoderma* (Tricholomatace-
ae) en Afrique centrale. Bull Jard Bot Nat Belg 39 :

183 – 190

Thoen D, Hongo T (1985) *Cystoderma japonicum*, a new
species from Japan. Trans mycol Soc Japan 26: 23 –
26